



高輪だより

平成29年6月号
港区立高輪幼稚園
園長 柿沼 敦子

「健やかな体を育む」

高輪幼稚園長 柿沼 敦子

5月末の土曜日、小学校の運動会が様々な地域で開催されました。私は、高輪台小学校と赤羽小学校・幼稚園の運動会に行かせていただきました。入場、はじめの体操、応援、各学年の演技では、児童の動きや声の揃う心地よさやメリハリのある動きに感動しました。また、係児童のきびきびと動く態度やアイコンタクトで合図を出し合う姿などに高学年としての成長を感じ、日頃のきめ細やかな指導や学級経営の成果ではないかと思いました。

児童のやり遂げた満足感、達成感の笑顔は最高でした。演技を見つめる教師の緊張感や安堵感、感無量の姿を見て、心を砕いて指導なされたことを思いました。

今年度、高輪幼稚園は園内研究の研究テーマを「幼児の健やかな体を育む指導の工夫」ー幼児の運動遊びへの意欲や健康な体への関心を高める実践を通してーとして研究を進めています。幼児が「わくわく」する運動遊びや活動を取り入れ、実体験を通して「体を動かすことが楽しい」「健康な体にしていこう」と思う意欲を高め、同時に「協同性」や「あきらめずに取り組む心」を育む指導を実践して参ります。

また、6月1日には足育推進園として実践報告会を行います。早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員の吉村眞由美先生から「幼児に求められる足と靴の教育について」ー健康と安全を守る習慣ーというテーマでご講演をいただき、今日的な課題をご提案いただき、さらに研究を深めていきます。

運動会の小学生の姿は、園児の何年か後の姿です。先の親子活動では、親子で遊びを楽しんでいただき、ありがとうございました。その後、3歳児は園生活で動きが活発になりました。4歳児は裸足でぽっくり歩きに繰り返し挑戦しています。5歳児は縄を使って様々な動きの遊びを楽しんでいます。健やかな体を育むためには、ご家庭との連携が不可欠です。何年か後の輝く姿に思いを馳せ、幼児期に健やかな体を育む基盤をしっかり培っていきましょう。

幼稚園の造形活動は、身近な題材（身近な自然や体験）から意欲を引き出すことができます。今回、5歳児は地域のお宅でのサクラランボの収穫、4歳児は遠足、3歳児は先生の絵本の読み聞かせをきっかけとして取組んだ作品です。

5歳児

「サクラランボ」水彩画



4歳児「水族館」タンポとローラーの体験



3歳児「お弁当バス」ぬり絵